

デザイン工学部

学部基礎情報

<p>【理念・目的】</p> <p>1. 「自然と環境」を基盤に、「歴史と文化」の遺産を基礎に置いて、「美学」と「工学・技術」の幅広い融合から生まれる新しい「ものづくり」・「空間づくり」・「都市づくり」の教育・研究</p> <p>2. 工学をベースにしなが、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合的デザイン」能力を身につけた学生の養成</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)</p> <p>デザイン工学部は、以下に示すような人材を育成する。</p> <p>1. 地域の歴史・文化を尊重し、人の感性と自然との共生を重視して安全で安心な社会・生活の形成に貢献できる。</p> <p>2. 都市環境・地球環境の視点に立ち、人類の幸福や自然環境の保全に配慮して、工学技術の発展と一層の充実を主導できる。</p> <p>3. 課題を見つけ、その課題を解決する方法・手法を考え、その方法・手法を駆使することより解決策を見出し、解決策を提示するとともに実行できる。</p> <p>4. 工学だけではなく、他の学問分野との知識の融合による新しい価値を創造する総合デザイン力を有する。</p> <p>5. 科学技術がもたらすプラスの面だけではなくマイナスの面も理解した上で、人々の安全・健康・福利に貢献できる。</p> <p><建築学科></p> <p>建築学科は、以下の7項目からなる「アーキテクトマインド」の修得を教育目標に掲げ、工学の知識と理性だけではなく、幅広い知性と感性をあわせ持つ人材を育成する。</p> <p>1. 総合デザイン力： 工学をベースとしなが、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造し、デザインする工学としての総合デザイン力と技能を有する。建築の問題を幅広い観点から捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を有する。</p> <p>2. 文化性： 歴史と文化という視点は他の工学分野と建築を峻別する。建築とは異文化への造詣を養い、過去を参照しながら、現在および未来を志向するものである。このような建築の文化性を理解できる。</p> <p>3. 倫理観： 地球環境をいかにして保持するかが建築・都市・環境に関わる専門家の倫理観の根幹とならなくてはならない。建築デザインは社会的責任を伴うものであることを理解できる。</p> <p>4. 建築の公理： 建築の初源がシェルターであるとするなら、安全、安心、快適は建築の根源的な公理である。建築が健全な社会の礎を担うための基礎知識を有する。</p> <p>5. 芸術性： 技術と芸術の両立は永遠のテーマである。建築がそのふたつの要素の統合を果たしたとき、人に感動を与えることができる。このような芸術性の素養を身につけている。</p> <p>6. 教養力： 建築の背景となる社会的な要請を論理的に分析し、理解することは建築を構想する土壌となる。数学、物理学などの自然科学および情報技術に関する知識が客観的で総合的な見識の基礎であることを理解し、それらに関する基礎学力を有する。</p> <p>7. 表現力： 建築することとは統合することであり、統合するためにはコミュニケーションやチームワークが不可欠である。そのスキルを担う、さまざまなレベルでの表現能力の涵養が社会を見据えた提案能力を培う。以上のことを理解し、それらの基礎的な能力を身につけている。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養を備えた技術者を育成する。

1. 歴史・文化の尊重と自然との共生：

地球的視点に立って、地域の歴史・文化を尊重する人格を形成し、自然環境と共生する社会基盤システムの整備に貢献できる思考能力、分析力、応用能力

2. 技術者倫理：

科学技術がもたらすマイナス面を理解した上で、災害や自然環境への適切な対処によって公共の安全・健康・福祉に寄与する素養

3. 工学基礎学力：

社会基盤システムの整備に不可欠な数学、自然科学、情報科学に関する基礎的な能力

4. 専門基礎学力：

社会基盤システムを計画・設計・施工・維持管理・評価する上で必要な材料工学、構造工学、地盤工学、水工水理学、計画学などの専門基礎学力

5. 専門知識の活用・応用能力：

工学基礎学力と専門基礎学力をもとに、都市プランニング、環境システム、施設デザインに区分したより高度な専門知識を学び、また実験・実習や卒業研究を通して、理論と実際の相違を考察・評価する能力と手法を習得し、それらを実際問題に活用・応用できる能力

6. 総合デザイン能力：

工学基礎学力・専門基礎学力・専門知識の活用・応用能力などをもとに、持続可能な社会基盤システムの計画・建設・維持管理に係る諸問題を解決するためのデザイン能力

7. コミュニケーション能力：

自己の考えを論理的、客観的にまとめて記述するとともに適切な発表や討論を行う能力と、英語を中心とした基礎的な国際コミュニケーション能力

8. 継続的学習能力：

目的意識を持って自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲と、それを計画的に実行する能力

9. 業務遂行能力：

さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で、他者や組織と協力して計画的に業務を遂行する能力

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、以下のような素養・能力を備えた人材を育成する。

1. 人間や環境との協調・調和：

高齢社会における人を中心としたデザインと地球規模の自然環境を配慮した「もの・システムづくり」を多面的に考えることができる能力と素養

2. 技術者倫理：

デザインから生産まで、「もの・システムづくり」のすべてのプロセスを総合的に眺め、グローバルな倫理観に基づいて公共の安全・健康・福祉に寄与できる責任ある技術者としての素養

3. デザイン工学的教養：

工学分野に加え、人文社会科学、自然科学、情報科学など幅広い分野の基礎知識、および情報・シミュレーション・表現技術などを道具として専門分野に応用できる能力、ならびに問題解決に活用できる能力

4. 専門基礎学力：

3つの専門分野（クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎学力、およびあらゆるシステムをデザインするための基礎となる共通の技法や一連の考え方に対する基礎学力

5. 総合デザイン能力：

システムデザインに関する知識を横断的に融合し、人間をデザインの中心に据えた「もの・システムづくり」の考え方に基づいて、問題発見からコンセプト立案、設計、試作に至る過程を計画・実践することのできる総合システムデザイン能力

6. コミュニケーション能力：

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

自己の考えや作品のアイデアなどを論理的かつ客観的に記述し、効果的にプレゼンテーションできる能力、なら
びに、英語を中心としてコミュニケーションする基礎能力

7. 継続的学習能力：

技術者資格の取得や英語学習など、目的意識をもって自己のスキルアップを継続的に進める意欲と素養

8. 業務遂行能力：

与えられた環境や期日などの制約条件を正確に分析し、理解したうえで、指定された業務を計画的に遂行する能力

【ディプロマ・ポリシー】

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 国際的な視野に立ち、自然、環境、歴史や文化に配慮して、美学と工学・技術の融合から生まれる、新しい「ものづくり」「空間づくり」「都市づくり」に関する基本的な知識や考え方を体系的に理解できる。
2. 工学の知識体系を背景として、文理を問わず他の学問分野との知識の融合による総合デザイン力を身につけている。
3. 総合デザイン力を実際問題に適用するための思考力・応用力を身に付け、さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で計画的に課題に対応できる。
4. 社会の一員として、他者と協力できる。
5. 社会との対話や社会への説明のためのコミュニケーション能力を有する。
6. 自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲を有し、継続的自己学習を計画的に実行できる。

<建築学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 大学で学び得た事柄を良き社会人として人々の厚生と福利のために役立てることを倫理的な使命と考える。
2. 建築家、建築技術者として社会から付託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある。
3. 修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協動的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする。
4. 建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを的確に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる。
5. 企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいついかなる場においても発揮することのできる語学力を有する。

<都市環境デザイン工学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 地球的視点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる。
2. 科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資する技術を社会へ提供できる。
3. 技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができる。
4. 技術者としての使命を果たす上で必要な文理にわたる教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる。
5. 地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる。

<システムデザイン学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見することができる。
2. 人間を中心とした「もの・システムづくり」ができる。
3. 科学的・工学的視点に立って、具体的・現実的なものやシステムを構成し提案することができる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

4. 環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる。
5. 国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる。

【カリキュラム・ポリシー】

本学部の理念・目標に掲げる「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成するため、以下のような、海外における語学研修を含む外国語科目、文理様々な分野に関わる基盤科目、専門科目を体系化し、一体的に学ぶことができるカリキュラムとしている。

1. 外国語科目（英語などの語学や海外語学研修）
2. 基盤科目（総合系、人文社会系、理工系、留学生科目）
3. 専門科目（導入科目、基礎科目、展開科目、特別科目）
4. その他（他学部公開科目など）

これらの科目体系の編成に際しては、以下の事項に配慮している。

1. 国際的視野を涵養するための長期の海外語学研修を含む外国語科目の充実
2. 文理を問わず他の学問との知識の融合と、専門科目への一体的な展開を目指した基盤科目の充実
3. 多様な学びを支援するための導入科目の充実
4. 専門の基礎的科目と専門教育の連携と、その体系的な編成・配置
5. 実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実
6. 多分野の先端技術に対応するための学科間の共通科目の設置
7. クラス制・担任制導入による個人差や多様性を尊重した少人数教育の充実
8. 社会への情報公開や説明責任の遂行に必要な倫理観を養うための技術者教育の充実

<建築学科>

工学的教養と専門のシームレスな融合に基づく建築学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目
- ② 基盤科目
- ③ 専門科目

2. 五つの専門科目系と目標

専門科目に以下の五つの系を配置し、それぞれに目標を設定している

- 建築デザイン：理論と美的視点に基づき、建築の企画・計画の流れを把握し、建築・都市という実体にまとめ上げる手法を希求する。
- 建築史・都市史：都市と建築の歴史を学び、その成立した社会的・文化的背景を把握し、将来の都市や建築の再生へ活用する。
- 環境工学・建築設備：環境保全への配慮をしながら、安全・健康・利便・快適な空間を提供するための技術を追求する。
- 建築構造：科学と技術の叡智により、安全・安心で持続的な構造物を合理的かつ美しく設計する手法を探究する。
- 建築構法・施工：先端的な構法と施工技術について研究し、建築材料や工法の観点から現代の社会的責任を果たす術を模索する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- 基盤科目は、専門科目と連携し、工学的知識と学際的教養の円滑な修得が図られるよう体系化している。
- 専門科目は、工学的な知識・理論に芸術的な素養を重合させるとともに、五つの系が有機的に結びつくように構成している。
- 五つの系を横断する少人数教育による PBL（学生が課題に取り組むプロジェクトベースの学習）科目としての各種のスタジオを配置し、実践的な能力の育成を図っている。特に、1年から4年次まで通して、建築設計を総合的に学ぶデザインスタジオを配置し、個性の発見と伸長を図っている。

<都市環境デザイン工学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

一般教養、語学などから基礎・専門に至るまでの都市環境デザイン工学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目：英語、英語以外
- ② 基盤科目：総合系、人文社会系、理工系、留学生科目
- ③ 専門科目：
 - (i) 導入科目
 - (ii) 基礎科目
 - (iii) 展開科目
 - (iv) 特別科目

2. 三つの専門科目系と目標

(ii)基礎科目と(iii)展開科目に関しては三つの専門科目系が以下のように設定されており、それぞれの目標に向かって学修する。

- I. 都市プランニング系：持続可能で美しい都市や国土を実現するために、都市機能・環境・景観・歴史文化等の多様な観点に関する分析・計画・デザインについての知識と技術を修得する
- II. 環境システム系：自然との共生と災害の軽減・緩和を果たす環境システムを創り維持するための基礎学理と先端技術を修得する。
- III. 施設デザイン系：安全で機能性の高い構造物をデザインし、維持・活用するための知識と技術を修得する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- 初学年及び2年度に配置された導入科目を通して専門科目への円滑な移行が可能である。
- 地域・国際社会で活動する技術者となるために、外国語・基盤科目・学科基礎科目の受講を通して人文・社会・自然科学に関する基礎知識、外国語能力、技術者倫理などを修得できる。
- 基礎から専門科目に至る学術・技術体系の階層性、専門科目間の相関構造を正しく理解し、総合デザイン能力着実に醸成されるように、授業科目が体系化されている。
- 実習・演習・スタジオ系科目においては知識体系の実質化・実装性を体験でき、充実したアクティブ・ラーニング授業が進められている。
- 基礎科目の履修によりデザイン工学全般にわたる最新技術情報を修得し、総合デザイン能力を確実に習得できる。
- クラス担任制度を導入し、各自が備えた資質・個性の多様性を活かした少人数授業を受講できる。
- 達成度自己評価システムによって、各学年・就学段階における学習目標達成度、GPA、技術者資格要件の充足状況などを学生自身が自主管理し、必要に応じて担任教員の支援を受けながら効果的にディプロマ・ポリシーを実現できる。

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、人間中心の機能的・美的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトデザインからプロダクションマネジメントまで、「もの・システムづくり」を総合的に学ぶカリキュラムとしている。

1. 全科目を以下の3つの区分に分け、総合的な知識や能力を身につける。

- ①外国語科目
- ②基盤科目
- ③専門科目

2. 外国語科目を1年次に集中的に学修することで、実用的な英語能力を修得する。また、海外英語研修などの英語に関する専門科目を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

3. 基盤科目は、幅広い教養の修得を目指して、総合系・人文社会系・理工系の各区分に科目を配置する。このうち理工系には数学や力学、総合系にはプログラミング、図形科学、統計学、認知科学などの科目を配置し、専門科目を学修するうえで必要となるデザイン工学的教養を修得する。
4. 専門科目は、もの・システムづくりを「クリエイティブ」（クリエーション系）・「テクノロジー」（テクノロジー系）・「マネジメント」（マネジメント系）の3つの視点からとらえ、これらをバランスよく履修することで、もの・システムづくりに必要な知識や技術、考え方を多角的に学ぶ。
- クリエーション系：人々が求めている“何か”を具体的な形にするために、構成力、編集力、発想力、問題発見能力とそれを他人に対して説明できる能力を修得する。
- テクノロジー系：構想やアイデアを実現するための具体的な構造や機能を、現実世界の中で設計し、それを現実のものやシステムとして作り上げ、動かして見せるための知識と技術を修得する。
- マネジメント系：経営戦略や、マーケティング、そして最適オペレーションなど、システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要な知識と技術を修得する。
5. 製品・サービスの提案・開発・評価などを行う創成型・プロジェクト型科目により、実社会との連携を取りながら、総合的デザインに対する動機付けや実践的な能力を修得する。また卒業研究・卒業制作を通して、もの・システムづくりに関するより高度で専門的な視点・知識・技術、ならびに研究や制作の成果を論文や作品としてまとめ上げる能力を修得する。

【アドミッション・ポリシー】

デザイン工学部は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
2. 高等学校で履修する各科目の内容を理解し、高等学校卒業程度の学力を有している。
3. 学部の教育目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解している。
4. 言語能力と文化多様性を基盤とした表現力を修得することに積極的である。

大学・学部のポリシーに基づき、デザイン工学部の各学科では、以下のように詳細を定めている。

<建築学科>

建築学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 文理にまたがる学問分野を広く深く学ぶことを通じて自己研鑽に努めたいと考えている。
2. 人々の健康で安心な生活、並びに社会の安全と公正について深い関心がある。
3. 人々の生活環境と社会システムの発展向上のために、建築家、建築技術者として専門的立場から何らかの貢献をしたいと考えている。
4. デザイン力を磨き、コミュニケーション力を深め、建築を含む幅広い分野に対し積極的に関与したいと考えている。
5. いかなる状況が顕現しようと、地球と世界の将来に希望を持ち、そこに自己実現の夢を抱いている。

<都市環境デザイン工学科>

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章に対して十分な理解を備えている。
2. 地球的視点の下に、自然を愛し人類の幸福に貢献する意欲を備えているとともに、公平・誠実で不偏の態度を保持できる。
3. 自然界や社会基盤施設における諸現象を理解・分析するために必要な自然科学の基礎知識と分析能力を習得する意欲がある。
4. 地球環境の変化ならびにグローバル社会の多様性・地域性を理解し、様々な制約条件下で技術的課題を解決するための思考力・判断力を備える意欲がある。
5. 特定分野に限らず人文・社会科学を含めて広範な科学分野に興味を持ち、それらの知識を習得する意欲がある。
6. 様々な地域社会や個人に対し技術者としての説明責任を果たすだけの潜在的表現能力を有している。

<システムデザイン学科>

システムデザイン学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章への深い理解を備えている。
2. 基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身につけている。
3. 文系的素養も持ち、豊かな感性を備えている。
4. デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに関心がある。
5. 創造性豊かで、公正な価値観を持っている。
6. 人間をデザインの中心に据えた「もの・システムづくり」に興味があり、それらの知識を習得する意欲がある。

【定員管理の状況】

定員充足率(2017～2021年度)(各年度5月1日現在)

年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍学生数	収容定員充足率
2017	292	317	1.09	1,168	1,290	1.10
2018	292	309	1.06	1,168	1,264	1.08
2019	292	276	0.95	1,168	1,247	1.07
2020	292	288	0.99	1,168	1,214	1.04
2021	299	294	0.98	1,175	1,199	1.02
5年平均			1.01			1.06

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	改善課題	是正勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20以上	1.25以上
上記以外の分野	1.25以上	1.30以上

【定員未充足の場合】

提言	改善課題	是正勧告
すべての分野共通	0.9未満	0.8未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
入学定員超過率	1.20以上	1.17以上	1.14以上	1.10以上	1.10以上	1.10以上	1.10以上
収容定員超過率	1.40以上						

【求める教員像および教員組織の編成方針】(2018年度自己点検・評価報告書より転記しています)

デザイン工学部の教員には、学部の理念である「総合デザイン」の理解を前提に、学部や学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教育目標に向けた高い相互理解力を保有していることが求められる。また横断的な知識の融合による多面的な観点から物事を検討し、理解できる学生の育成と支援が求められる。

このような学部としての教員像を踏まえたうえで、各学科では以下のような方針の下、教員組織の編成を行なっている。

建築学科では、学習・教育目標の達成に向け、5つの専門分野から構成される教員組織、すなわち、①建築デザイン、②建築史・都市史、③環境工学・建築設備、④建築構造、⑤建築構法・施工の各分野に専任教員を配置し、それぞれが先端的研究能力を有すると同時に、相互の分野を横断的に解釈・実行できる教員を求めている。

都市環境デザイン工学科では、学習プログラムに示される目標を適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった教員と教育支援体制を求めている。教員の構成は、3つの系と呼ぶ専門分野、すなわち、①都市プランニング系、②環境システム系、③施設デザイン系それぞれに教育目標に応じて適切に専任教員を配置するとともに、助教や経験豊かな任期付き教員などを含めて多彩な教員組織を構成していく。また、専任教員は研究とともに、教育さらには学校運営事務の能力をバランスよく備えていることを求めている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

【専任教員数および年齢構成一覧】

2021年度専任教員数一覧（2021年5月1日現在）

教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任 教員数	うち教授数
27	5	2	0	34	28	15

専任教員1人あたりの学生数（2021年5月1日現在）：35.3人

年齢構成一覧（2021年5月1日現在）

年度\年齢	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下
2021	9	11	9	5	0
	26.48%	32.36%	26.48%	14.71%	0.0%

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】（参考）

デザイン工学部で2019年度からカリキュラム改定がなされたのは、教育の質の向上のための積極的な取り組みである。その後、2020年度に外国人等客員教員1名が着任し、「特別講義」の開講による、学生の国際性を涵養するための教育内容が提供されている点、各学科において、学習成果を把握・評価する具体的な方法が導入されている点、JABEE研修会への代表教員の参加や公開講座などの実施による、学外の情報を取り入れ、学外へ情報を発信する活動を実施している点で、適切な運用がなされている。

また、2020年度はコロナ禍対応で対面授業が制限されるなか、演習系授業の対面実施が夏季集中特別授業期間にいち早くおこなわれており、演習・実験・実習系授業を重要視しているデザイン工学部の姿勢として高く評価できる。今後のコロナ禍における授業のあり方についての引き続きの議論が望まれる。2020年度は中止となった諸行事の実施にも期待したい。

今後も、教育の質をより向上させるため、安定かつ積極的、また、緊急事態時における柔軟な対応を継続することを期待する。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

オンラインと対面授業のハイブリッド型授業の試行および検証を継続的に実施した。教室定員抑制の中で演習・実験・実習系科目の対面授業を実施するため、学部全体で時間割と使用教室を俯瞰し、登校学生数の把握と校舎内における授業時間外の滞在場所の確保に配慮しながら、講義科目のハイブリッド型授業を導入した。

2020年度に中止したデザインスクールを2021年度はオンラインで開催した。社会貢献の観点から、デザインスクールなどの公開講座を受験生のみならず幅広い層を対象とした講座への展開を検討中である。

自治体との地域協定に基づく取り組みはCOVID-19感染拡大により実施には至っていない。協定の具体化を進めるために、現地ワークショップなどの協議を開始している。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学部では、学生の学習効果やモチベーション維持のために、新型コロナ禍においてもオンラインと対面授業のハイブリッド型授業の試行および検証を継続的に実施しており、教育・研究の推進の更なる改善に向けた取り組みの状況が伺われる。

また、新型コロナ禍の影響で2020年度に中止となったデザインスクールも、2021年度大学評価結果総評への対応がなされ2021年度はオンライン開講された。当該デザインスクールは社会貢献活動として評価でき、上記と同様の取り組みが結実した成果と評価できる。

さらに、自治体との地域協定に基づく取り組みは、新型コロナ禍の影響で実施されていない状況であるが、現地ワークショップなどの協議を開始するなど実現に向けた努力が伺われ、高く評価できる。

II 自己点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

2012年度から各学科から選出された質保証委員会を立ち上げ、年4回の質保証委員会を開催し、理念・目的の適切性を学科相互に検証している。

<建築学科>

JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受けている。学科内にJABEE運営委員会とそれに連携する外部評価委員会（年1回開催）を設置し、理念・目的の適切性を定期的に検証している。JABEE運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習・教育到達目標WGを設置し理念・目的が社会情勢の変化に伴って適切なものとなっているかを検証するとともに、最低1年に2回はWGを実施して教室会議において報告を行い、拡大教室会議においてその妥当性について審議している。

2004年度からJABEEの認定を受け、継続的に受審することにより、理念・目的の適切性を検証している。

<システムデザイン学科>

年度末に学科の教室会議において、理念と目的の適切性の検証を行い、その後開催される専任教員と外部講師とのカリキュラム打ち合わせ会において、全員で意見交換を行っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

学部、学科の各レベルで理念・目的の検証を定期的に行っている。2つの学科がJABEE受審を基に多角的な検証を実施し、学部全体にフィードバックする仕組みが機能している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【理念・目的の評価】

デザイン工学部の各学科の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されており、さらに、理念・目的の適切性の

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

検証も着実に実施されている。

また、デザイン工学部の理念・目的は、履修の手引き、および、学部ホームページに掲載することで明示されており、教職員及び学生への周知と社会に対する公表がなされている。

さらに、学部、学科の各レベルで理念・目的の検証が定期的に行われている状況が何われ、フィードバック機能も有している。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・ 質保証委員会は各学科の専任教員から1名（計3名）と各大学院専攻主任3名の計6名で構成。学科選出委員は学科の意見取りまとめ、学科状況の把握に努め、その他の委員は学部全般に関する視点を持って委員会の作業全般に参加
- ・ 年4回開催（2021年4月20日、5月25日、11月30日、2022年3月2日）

（主要議題）

自己点検・評価シート素案の確認／学部の3つのポリシー確認／シラバス記載内容のチェック

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。

シラバスの記載内容を確認し、COVID-19への対応が授業内容に反映され、学生へ十分に告知されていることを確認した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

質保証委員会議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

学部と院の質保証を相互にチェックし、学部、院の連携を図りながら教育の連続性と質的向上に対する取り組みを行っている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【内部質保証の評価】

デザイン工学部の質保証委員会は、3学科の専任教員から1名（計3名）と各大学院専攻主任3名の計6名で構成され、委員会の開催も年4回であり、適切に活動が行われている。また、学科選出委員は学科の意見取りまとめ、および、学科状況の把握に努められていることが伺われる。シラバスの記載内容を再確認することで、COVID-19への対応が授業内容に反映され、また、学生へ十分に周知されているかを確認・把握する役割も果たしている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・ デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・ 法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」
<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html>

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度3.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

<学部共通>

各学科から選出された委員からなる質保証委員会を2012年度に立ち上げ、年4回の当委員会において、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を学科相互に検証している。

<建築学科>

JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受けている。学科内にJABEE運営委員会と外部評価委員会（年1回開催）を設置し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を定期的に検証している。JABEE運営委員会の活動と外部評価委員会による評価を資料とし、教室会議において関連事項の審議・検証を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

教育目標、学位授与方針が社会情勢を反映した適切な内容となっているかを学科内に設けた学習・教育到達目標WGにおいて随時検証し、教育課程の編成・実施方針については、教育内容WGにおいてその適切性の検証を行っている。さらに、3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、標記事項の適正性についての評価を受けている。

<システムデザイン学科>

年度末（2021年度は2022年3月1日（火））に外部の兼任講師を含む授業担当者による授業打合せ会を開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性を検証・確認している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

- ・ JABEE運営委員会議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・ 拡大教室会議の配布資料・議事録（WG活動報告を収録）
- ・ 教育評議員会の配布資料・議事録

<システムデザイン学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

授業打合せ会開催案内

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021年度 1.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2019年度にカリキュラム改定を実施し、開講科目の大区分を外国語科目、基盤科目、専門科目の3区分とした。基盤科目は、中区分を総合系、人文社会系、理工系、留学生に改め、文理融合と専門科目への一体的な展開を目指した科目の配置を行っている。専門科目については、多様な学びを支援するための導入科目と、各学科の専門領域に適合した基礎科目、展開科目をそれぞれ配置し、基礎的科目と専門教育の連携や実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実を図っている。また、多分野の先端技術に対応するため、各学科の専門科目の一部を学部共通科目として開講している。

なお、建築学科では、2013年度に大学院建築学専攻とともに JABEE（日本技術者教育認定機構）より教育プログラムの認定を取得しており、この認定によって UNESCO-UIA（国際建築家連合）提唱の建築教育憲章に基づく国際的な建築教育プログラムとの同等性が保証されている。また、都市環境デザイン工学科の教育プログラムは、工学部時代の 2004 年より JABEE に認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容となっている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

法政大学憲章に掲げられた「自由を生き抜く実践知」、ならびにデザイン工学部の設置理念である『『総合的デザイン』能力を身に付けた学生の養成』を推進し、基盤教育のより一層の充実を図るため、2021 年度に『デザイン工学部基盤教育方針』を策定した。2022 年度はこの方針を基に、カリキュラム改定と担当教員の採用を実行する予定である。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
 - ・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー（デザイン工学部ホームページ）
- https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree/
- ・デザイン工学部基盤教育方針（デ工申し合わせ 010 号）

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021 年度 1.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

外国語科目と基盤科目に関しては、1 年次から履修可能な科目を多く配置しながらも、一部の科目については、授業内容の専門性・高度性を考慮して 2 年次または 3 年次以上に配置している。専門科目に関しては、導入科目、基礎科目、展開科目の順に、専門性が学年進行とともに段階的に高まる教育課程を編成している。また、科目区分ごとに必修科目や選択必修科目を設定し、進級・卒業要件を定めている。

専門科目系として建築学科では 5 つの系を、都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科ではそれぞれ 3 つの系を設定しており、各学科とも系ごとにカリキュラムツリーを作成して科目間の年次時系列的なつながりを可視化している。また、学科ごとに各科目とディプロマポリシーとの対応を示すカリキュラムマップを作成している。カリキュラムツリーとカリキュラムマップは履修の手引きと学部ホームページに掲載し、学生がカリキュラムを体系的に把握し、適切な履修順序を確認することができるようにしている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

「デザイン工学部基盤教育方針」において、基盤教育は、工学基礎分野に加え、デザイン工学が対象とする専門領域を「実践知」として社会に展開することに資するデザイン工学の関連分野と位置づけている。そして、「専門を深め、専門を超える学び」として、学生がそれぞれの専門分野の背景理解やデザインの社会実装のための知見を得ることを目的とした。2022 年度はこれらの方針に沿って、新たな基盤科目を設置し、基盤科目群全体の再構築を行う。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー（デザイン工学部ホームページ）

https://www.hosei.ac.jp/edn/shokai/map_tree/

・デザイン工学部基盤教育方針（デ工申し合わせ 010 号）

3.3③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。2021年度 1.1③
に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

教養教育（基盤科目）は文化や歴史、社会、経済に対する包括的な理解を促すとともに、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして、具体的には以下のように実施している。

- ・外国語教育：英語教育は TOEIC を熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託している。中国語、イタリア語については、語学教育をベースに異文化理解を目指す科目として捉えている。なお、英語教育に関しては、学部内に英語教育委員会を設置し、外部委託先と協議しながら審議・検討を行っている。
- ・理工系基盤教育：学科ごとに専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保している。
- ・その他の基盤教育：デザイン工学の実践的側面を補う観点から、総合系、人文社会系の科目を取り揃え、1～4 年次配当科目を中心に、一部の科目を 2 年次以降に配置している。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

2021 年度に策定した「デザイン工学部基盤教育方針」では、基盤教育の内容を、デザイン工学を学ぶ前提となる数理系分野、デザイン工学の理念や思想・判断基準に広く関わる基礎分野、およびデザイン工学の社会的実装に関わる応用分野を想定している。2022 年度は具体的な科目群を設定し、現行カリキュラムの基盤教育をより一層発展させる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・英語教育委員会資料、議事録
- ・デザイン工学部基盤教育方針（デ工申し合わせ 010 号）

3.3④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021年度 1.1④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

3 学科とも、少人数制の初年次導入科目を設け、大学における学びに対する意識付けや動機付けを行っている。また、入学時における英語、数学、物理の学力を把握するため、プレースメントテストを実施している（2020 年度は COVID-19 の影響のため中止とし、2021 年度は Web 試験により実施した。）

建築学科では、「スプリングセミナー」において、数学・物理の知識が不十分な学生に対する補習授業を実施している。

都市環境デザイン工学科では、「導入ゼミナール」において、コンピューターテラシー等の基礎教育を行っている。また、1 年生を対象とした力学系・数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れている。

システムデザイン学科では、「導入ゼミナール」において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。数学や力学の必修科目では、高等学校において数学 III や物理を履修していない学生に配慮した授業内容としている。また、「システムデザイン入門」において、全専任教員からシステムデザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生がそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部新入生への案内
- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科）

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.3⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

外国人等客員教員の制度を活用して積極的に外国人教員を招聘し、外国人教員による「特別講義」等の授業を開講している。2020年度は外国人等客員教員1名が着任した（当初は2名の予定であったが、うち1名はCOVID-19の影響により招聘を2021年度に延期した後、状況が好転しないことから取下げとした）。さらに2021年度にも1名を招聘した。また、2019年度に、英語の熟達度を測る指標をTOEFL-ITPからTOEIC-IPに変更し、幅広い対応性を目指すこととした。

建築学科では、2年次に外国人教員担当の学部科目「Design Basics in English」を配置している。

都市環境デザイン工学科では、2年次に「工業英語」を、3年次には「工業英語実習」を配置し、実践的英語の教育を行っている。「工業英語」では試験科目として工業英検3級、4級を導入している。

システムデザイン学科では、2016年度より、南フィリピン大学において個人レッスン90時間・グループレッスン60時間に及ぶ「海外英語研修」（C期、50日間）を実施しており、TOEIC-IPスコアの向上につながっている。ただし、COVID-19の影響により2020年度および2021年度は中止となった。2022年度以降については、オンラインによる実施や代替プログラムの可否について検討を行う。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・英語教育委員会議事録
- ・デザイン工学部教授会議事録

3.3⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑥に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

各学科において、初年次配当の導入科目の中で卒業後のキャリアパスを紹介している。また、実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任教員による授業を多く導入している他、実務で活躍する社会人による特別講演会を開催している。

建築学科では、「スプリングセミナー」（1年次）において「アーキテクトマインド」の冊子を配布し、建築を学ぶことの意義を説くとともに、卒業生の協力を得てキャリアパス教育の一端を担う内容を組み込んでいる。カリキュラムは、建築士試験の受験資格として必要な指定科目群と対応づけられた科目群で構成され、職業的自立を図るために必要なキャリア教育が実践されている。また、授業担当教員は建築士資格や実務経験を有する実務家教員が過半を占めており、実務の観点を踏まえた授業が積極的に行われている。

都市環境デザイン工学科では、「導入ゼミナール」（1年次）および「社会基盤概論」（2年次）にて実社会における都市環境デザインの役割の説明を、「基礎ゼミナール」（2年次）にてキャリアパスとロールモデルの説明やキャリア紹介ビデオの視聴、技術士説明会をそれぞれ行っている。また、「ゼミナール」（3年次）におけるキャリア指導（キャリアセンターによる講演）、同窓会（法士会）との懇談会（キャリアデザインセミナー）を実施している。

システムデザイン学科では、「システムデザイン入門」（1年次）の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施するとともに、卒業生をゲスト講師に招いた講義を行っている。また、「ゼミナール1」（3年次）においてキャリアアップ講座を実施している。

都市環境デザイン工学科とシステムデザイン学科では、3年次に選択科目「インターンシップ」を配置し実務体験を促している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・Web シラバス
- ・建築士試験受験資格指定科目対応表（建築学科）
- ・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科）

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・新入生に対して、オリエンテーションの一環でもある「スプリングセミナー」（建築学科）、「導入ゼミナール」（都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科）において、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説するとともに、少人数制による履修指導を行っている。
- ・2年生以上に対して、進学時のガイダンスにおいて進級・卒業要件の確認を含めた履修指導を行っている。
- ・建築学科では、学科独自の履修支援システム「CARESS」をIAE（Integrated Archive Environment）サーバー（学科内で運用するサーバー）上に構築し、建築士受験資格要件を満たすための履修シミュレーションなどができる環境を学生に提供してきた（2018年度以前入学生が対象）。3年時のゼミ選択の際に履修単位の点検を行い、個別面談で履修指導を行っている。現在、学部共通の達成度システムへの移行を検討している。
- ・都市環境デザイン工学科では、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談を実施している。
- ・システムデザイン学科のSSIコースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途履修指導を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・デザイン工学部教授会資料（ガイダンス日程表）
- ・IAEサーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内（建築学科）
- ・学生から提出された「達成度自己確認システム」（教員による内容確認済み）の保管資料（都市環境デザイン工学科）
- ・SSI履修の手引き（システムデザイン学科）

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

各学科において、入学・進学時のガイダンスで当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明しており、新入生に対しては、少人数制の導入科目の中で大学における学習方法を指導している。また、担任制による学習指導（成績不振学生との面談等）を実施しており、2019年度からは成績不振学生の指導記録を学部で集約し、確実な指導の実施と記録の保存を図っている。

個々の授業に関しては、学習に必要な事項をシラバスに明記、または学習支援システムを通して学生に周知するとともに、多くの科目に教育補助員（T・A）を配置し、学習支援を行っている。専任教員は、全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応している。（ただし、2020年度以降はCOVID-19の影響のため、メールやビデオ会議システム等を利用した対応を行った。）

システムデザイン学科では、学年ごとに学年担当の専任教員を配置している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・成績不振学生指導記録
- ・Web シラバス

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.4③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021年度1.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

年間履修登録上限数を49単位と定め、学習時間を確保しやすい仕組みとしている（2021年度は、COVID-19による影響を考慮し、2020年度以前入学生を対象に上限を53単位まで引き上げることのできる特例措置を講じている）。また、COVID-19の状況を踏まえ、必要に応じて校舎への入講や教室の利用を制限しつつ、感染症予防対策を徹底したうえで、授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。

建築学科では、学科内のIAEサーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開している。また、同サーバーのRFC（Request For Comments）機能により、双方向性の自習ができる環境を整えている。

都市環境デザイン工学科では、シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知するとともに、講義では、適宜宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習では、レポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。

システムデザイン学科では、予習・復習のため、学習支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、感染症予防対策を実施したうえで、スタジオ教室を授業時間外に開放したり、造形製作室やゼミ室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・IAEサーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内（建築学科）
- ・卒業研究実施記録、各授業の講義記録（都市環境デザイン工学科）
- ・授業資料（システムデザイン学科）

3.4④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4④に対応

はい

【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

年間履修登録単位数の上限を49単位と定めている（ただし、教職資格科目は除く）。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

該当なし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政HONDANA）

3.4⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021年度1.2④に対応

S：さらに改善することができた

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

<建築学科・システムデザイン学科>

- ・「構造実験」「材料特性実験」（建築学科）、「プロダクトデザイン1～4」「プロジェクト実習・制作1・2」（システムデザイン学科）などの実験・実習系授業：大型工作機械や3Dプリンタ、3Dスキャナ等を活用した造形実習教育 ※ 機器機材の適切な運用管理にあたっては、造形製作室運営委員会を設置し、利用調整を図るとともに、定期的に教務助手や教育技術嘱託を常駐させることで安全管理に努めている。

<建築学科>

- ・「デザインスタジオ5・6」：HAL（Hosei Active Learning）スタジオを活用した少人数制設計教育（アクティブラーニング）
- ・「フィールドワーク」：グループワークによる街区や建物の調査、および図面・模型の製作（PBL型フィールドワーク）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「デザインスタジオ」：基礎立体造形の訓練（アクティブラーニング） ・「橋のデザイン実習」：橋梁の計画と模型製作（アクティブラーニング） ・「鋼構造学及び演習」：鋼構造の計画と模型製作（アクティブラーニング） ・「RC 構造学及び演習」：配筋模型の製作（グループワークによるアクティブラーニング） ・「プロジェクトスタジオ」：対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL 型フィールドワーク） <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海外英語研修」：国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上（個人授業を含む） ※ 2020 年度・2021 年度は COVID19 による影響により中止 ・「ゼミナール 1」：全学生による複数のプレゼミの受講（多分野融合研究の基礎構築） ・「プロジェクト実習・制作 1・2」：製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習（分野横断型 PBL） ・「応用プロジェクト 1・2」：本格的な製品企画と、その具現化（PBL）および作品の学外コンペティションへの積極的な応募の奨励 <p>【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築学科＋建築学専攻では、2020 年度に各デザインスタジオにおける学生の成果を全学年横断的に発表・講評する場としてバーティカルレビューを開催して、教員・学生同士で活発に議論し、評価・講評する機会を設けた（オンライン）。2021 年度は特設 WEB ページを継続的に公開して学生の主体的な学習を促すとともに、バーティカルレビュー実行委員に学生を加え、教員と学生が連携して運営する体制を整えた。 ・システムデザイン学科「応用プロジェクト 1・2」：経営学部の教員・学生も参加し、学部の枠を超えたグループを編成することで、学外コンペティションへの応募を前提とした多様な視点による製品企画を目指している。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス ・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科） ・バーティカルレビュー特設ページ https://iae.hosei.ac.jp/event ・学外コンペティションのホームページ（システムデザイン学科） <p>GUGEN https://gugen.jp/index.html</p> <p>横浜ビジネスグランプリ https://www.idec.or.jp/kigyoybg/</p>
--

3.4⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021 年度

1.2⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※どのような配慮が行われているかを記入。

英語については、1 クラス 30 名以下として英語能力に応じたクラス編成を行っている。各学科で実施している初年次導入科目では、全専任教員がそれぞれ少人数のクラスを担当することで、新入生とのきめ細かなコミュニケーションを図っている。

建築学科では、学生個別の指導が必要な「デザインスタジオ」等のデザイン系演習科目について、学年を 4～6 クラスに分割して少人数授業を実施している。

都市環境デザイン工学科では、数学・物理等の基礎的科目および「RC 構造学及演習」「鋼構造学及演習」などの講義科目、「工学実験 1」などの実験科目、「測量実習」「デザインスタジオ 2」などの実習科目において 2 クラスに分割して少人数での学習指導を実施している。

システムデザイン学科では、数学、力学の必修科目に加え、「図形科学基礎演習」「プログラミング基礎演習」「デジタルデザイン演習」「3DCAD デザイン」「3D モデリング」などの演習科目において 2 クラス制による少人数での指導を実施している。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）

3.4⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑦に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

<学部共通>

- ・ 質保証委員会にて検証を行っている。
- ・ 全教員・学生による Web で公開シラバスの閲覧。

<建築学科・都市環境デザイン工学科>

学科内の日本技術者教育認定機構プログラム責任者を中心とした検証。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ Web シラバス

3.4⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑧に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。

- ・ 授業実施の証拠資料（配布資料、講義記録、学生提出物、補講資料）を JABEE 室において保管し、プログラム責任者を中心に検証（建築学科、都市環境デザイン工学科）。
- ・ 教室会議、拡大教室会議による授業エビデンス提出状況の確認。
- ・ 次期授業改善計画を作成し、授業内容・シラバスを継続的に再点検・見直す。
- ・ 複数教員科目に関しては、授業終了時・開始時における打合せにより授業内容・シラバスの再点検・見直しを施す。「デザインスタジオ」「フィールドワーク」等の実習授業では、成果発表・展示を通して検証。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

デザインスタジオ連絡会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

各授業の講義記録、授業改善計画書

3.4⑨通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021年度

1.2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。

- ・ Zoom や学習支援システム、Google Classroom、YouTube 等を活用し、対面授業の実施を前提としつつ、オンラインコンテンツ化している。
- ・ 作品制作やフィールドワークを想定した演習・実習科目について、自宅外での活動が制限される状況に配慮したテーマの設定・変更を行っている。
- ・ 定期試験の代替として学習支援システムの課題機能やテスト機能を活用した成績評価を行っている。（講義名：数学 1、建築生理心理 1・2、材料の力学、骨組の力学、鉄筋コンクリートのデザイン、音・振動環境、空間の構造デザイン 他）
- ・ 実習授業の指導についてオンラインを活用した指導やグループワークを行っている
- ・ 情報教室にインストールされているソフトウェアを利用する授業をオンラインでも実施できるように、フローティングライセンスを追加購入し、学生が自宅からでも VPN 接続してソフトウェアを利用できるようにしている。
- ・ 造形製作室やデジファブセンターの利用に関して、Google フォームによる利用申請や問い合わせの受付、利用予定表や予約状況の開示、予約者が多い場合に混雑を回避するための抽選等を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・ 学習支援システム

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・各学科教室会議議事録
- ・授業記録（建築学科、都市環境デザイン工学科）、授業資料（システムデザイン学科）

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・成績の評価方法と評価基準を履修の手引きやWeb シラバスに記載し、学生へ明示している。
- ・学生からの成績評価に対する疑義に対しては成績調査により対応しており、必要に応じて解答用紙や提出レポート等を開示し、採点理由を説明することとしている。
- ・JABEE プログラム責任者を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証している。（建築学科・都市環境デザイン工学科）
- ・全ての授業について「採点・評価結果報告書」（成績原簿）を作成・保管し、GPCA や習得率を確認している。また、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用している。（都市環境デザイン工学科）
- ・グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目において、成績評価項目にグループ内での自己・相互評価の結果を含めている。（システムデザイン学科）

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政 HONDANA）
- ・Web シラバス
- ・成績調査願

3.5②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。2021年度1.3②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

成績評価項目（レポート、小テスト、定期試験など）とその評価比率をシラバスに明記し、その内容に従って成績を適正に評価している。また、年度末等に開催している授業打ち合わせ会や講師懇談会等の場で、成績の厳正評価を、兼任教員を含む全教員の共通認識とすることを徹底している。卒業研究や卒業制作については、各学科において審査会を実施して複数の教員で厳格な評価を行い、教室会議にて単位認定の判定を行っている。

都市環境デザイン工学科では、出席管理システムで設定する遅刻や欠席となる時間を学科で統一しており、欠席回数についても統一したルールを設けている。また、2018年度のJABEEによる中間審査時の指摘に対応して、達成度自己評価システムの提出を3年次ゼミナールの単位取得の条件として明示している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～）（建築学科、都市環境デザイン工学科）
- ・各学科教室会議議事録
- ・スタジオ連絡会議の議事録（建築学科）、授業打ち合わせ会資料（システムデザイン学科）

3.5③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

各学科において、就職担当教員を中心に内定状況や求人に関する就職活動情報を収集・管理し、教室会議で共有している。また、学科ごとに集計した進路情報はキャリアセンターに情報提供しており、学部パンフレットにも掲載している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議議事録
- ・就職担当教員による情報収集資料
- ・キャリアセンターへの情報提供資料
- ・デザイン工学部デジタルパンフレット（デザイン工学部ホームページ）

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度 1.4①に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

学科ごとに、GPA の分布やGPCA の算出による授業ごとの成績分布を把握している。また、進級要件を設けており、留級者や成績不振者の状況を教室会議で確認し、担当教員が個別面談による学習指導を行っている。各学科の進級・卒業判定結果は教授会で報告され、承認されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各学科教室会議議事録
- ・デザイン工学部教授会議事録

3.6②学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

英語教育について、TOEIC-IP のスコアによる到達目標を設定している。卒業研究や卒業制作については、学科ごとに実施する審査会を通して学習成果を総合的に把握しており、成果が不十分と判断される学生については再審査や論文再提出の機会を設けている。

建築学科では、「デザインスタジオ」などの演習科目において、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加することで、学生自身が振り返りを行い、達成度を確認している。

都市環境デザイン工学科では、学部共通の達成度自己評価システムに学科で必要な項目を追加した Excel 入力シートを学生に配布しており、学生は年 2 回このシートに記入して教員に報告し、教員はその報告内容を確認する取り組みを行っている。これにより、学生自身に学習成果を客観的に認識させている。

システムデザイン学科では、奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などに関して GPA に基づく基準を設けて順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・各学科教室会議議事録
- ・達成度自己評価システム（都市環境デザイン工学科）
- ・システムデザイン学科ホームページ（受賞報告）

3.6③学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度 1.4③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>入学時にプレースメントテストを実施し、基礎学力を測定している（2020年度はCOVID-19の影響のため中止、2021年度以降はWeb試験により実施）。英語の授業ではTOEIC-IPを成績評価の方法に取り入れている。</p> <p>建築学科では、3年次秋学期のゼミ配属時に学習達成度の確認と指導教員への報告を行い、その後の履修計画に対する助言を行っている。また、「デザインスタジオ」などの演習科目で最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。「卒業設計公開講評会」に外部審査員を招聘し、学習成果の相対的な検証も行っている。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告させ、教員がこれを確認している。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標ごとの達成度や学習効果を定量的に把握・確認している。</p> <p>システムデザイン学科では、分野横断型の実習科目「プロジェクト実習・制作」において全教員が参加する成果発表会を実施し、コミュニケーション力を含めた学習成果を測定している。また、学内外の各種コンペティションの受賞状況から学習成果を評価している。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>特になし</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部新入生への案内 ・Web シラバス ・達成度自己評価システム ・学生から提出された達成度自己評価システムの保管資料（教員による内容確認済み）（都市環境デザイン工学科） ・授業記録（建築学科）、授業資料（システムデザイン学科） ・システムデザイン学科ホームページ（受賞報告）

3.6④学習成果を可視化していますか。2021年度1.4④に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等</p> <p>市ヶ谷田町校舎内の展示スペースに学生による優秀作品を展示し、学習成果を可視化している。その他、各学科が以下の取り組みを行っている。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設計作品、卒業論文、卒業設計について、作品集、論文集を刊行している。 ・設計作品をとりまとめたHOSEI STUDIOWORKSは学生、教員等に配布すると共に学科会議室の前に常設し、いつでも閲覧できるようにしている。 ・IAE サーバーのRFC機能により、優秀作品の公開と学生による研究成果や作品の発信を図っている。 ・IAEサーバーを利用して学生がポートフォリオ（e-Portfolio）を作成できるようにしている。 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・学科ホームページ・教室棟展示棚に公開している。 ・デザインスタジオ、CAD実習等の設計演習系科目の作品をイヤーブックとしてとりまとめている。 ・卒業論文概要を作成し、次年度の在學生に配布している。また、学科ホームページの各研究室の卒業論文・修士論文の一覧において卒業論文概要を学内に開示している。 ・学会などにおける学生の受賞を学科ホームページにて報告している。 ・達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究・卒業制作の概要集を作成している。 ・大学院システムデザイン専攻と合同で作品集を作成している。電子版を学科ホームページで公開するとともに、2021年度は冊子体を新入生に配布した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・演習・実習系科目の優秀作品、および学内外の各種コンペティションや学会等の受賞状況を学科ホームページで公開し、学内展示スペースでパネル展示を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<p><3 学科共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市ヶ谷田町校舎内の回廊展示 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IAE サーバー「RFC」(Request for Comments) の利用案内 ・『HOSEI STUDIOWORKS』(作品集) ・『建築研究』(論文集) <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文・修士論文概要 CD-ROM ・都市環境デザイン工学科ホームページ ・イヤーブック (作品集) ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み) の保管資料 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究・卒業制作概要集 ・『HOSEI University Engineering & DesignCreative Works』(作品集) ・システムデザイン学科ホームページ

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検定体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

カリキュラムの見直し期には、各学科において学科内委員会を発足させてこれにあたっている。

建築学科では、JABEE のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。

都市環境デザイン工学科では、JABEE による認証評価を受審、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。また、毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査の結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図るとともに、同窓会(法土会)主催の社会工学セミナーや同窓会との意見交換会を実施(2021年度はコロナ禍により中止)することにより、自立力ある技術者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。さらに、3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、教育課程およびその内容についての評価を受けている。

システムデザイン学科では、教室会議や年度末の授業打ち合わせ会にて学生の履修情報を教員間で交換・共有し、授業内容や授業方法の見直しの機会としている。なお、COVID-19の影響により、2021年度の授業打ち合わせ会はオンライン開催とした。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<3 学科共通>

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き(冊子体、法政 HONDANA)
- ・教室会議議事録

<建築学科>

- ・建築 JABEE 運営委員会議事録

<都市環境デザイン工学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

- ・教室会議議事録（法士会との意見交換会議事録を収録）
 - ・拡大教室会議の配布資料・議事録（WG 活動報告を収録）
 - ・法士会会報（社会工学セミナー実施報告を収録）
 - ・教育評議員会の配布資料・議事録
- <システムデザイン学科>
- ・授業打ち合わせ案内

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【利用方法】※箇条書きで記入。

各学科において、授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し、学科内で共有している。また、授業改善アンケート結果の内容を各教員が照査し、特徴的事象については、教室会議や年度末に実施している授業打ち合わせ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。

都市環境デザイン工学科では、授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が全ての授業について「次期授業改善計画」を作成し、授業の改善に反映させている。また、学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。授業評価の高い科目とその担当教員の一覧を学内掲示板と学習支援システムに開示し、全教職員および学生に周知することで、継続的な授業改善の仕組みを作っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・Web シラバス
- ・教室会議議事録、拡大教室会議議事録（都市環境デザイン工学科）、授業打ち合わせ案内（システムデザイン学科）
- ・学習支援システム「お知らせ」（都市環境デザイン工学科）

（2）長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・建築学科と都市環境デザイン工学科は JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受審し、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。
- ・英語による実践的コミュニケーション能力の向上を目的として、英語教育委員会を設置し英語教育のあり方を継続的に議論している。また、外国人等客員教員の制度を活用し、外国人教員の招聘を積極的に行っている。
- ・初年次導入科目において、クラス分けによる少人数制できめ細かな履修指導や学習指導、初年次教育を行っている。
- ・学科ごとに、学生に自己の学習達成度を客観的に評価させる取り組みを実施している。
- ・学生の作品や成果物を作品集や論文集にまとめ可視化している。

（3）課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

- ・製作や実験に必要なスペースおよび施設の拡充について継続的に検討していく必要がある。そのための一つの取り組みとして、他の教育機関と連携し、同校の実験施設を夏季集中の演習授業で利用する計画を進めている。
- ・コロナ禍およびコロナ後の授業のあり方について、対面授業とオンライン授業を併用したハイブリッド型授業の活用や評価方法に関する議論を進める必要がある。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・2021年度に策定した基盤教育方針に沿った教員体制と開設科目について、引き続き基盤教育委員会を中心に検討を進め、議論を深める必要がある。
- ・高学年次の英語教育の在り方について、カリキュラム改定の議論と併せて検討を行う。

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

デザイン工学部と各学科の修得すべき学習成果、および、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針は、適切に設定されている。また、学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針も適切に設定されている。これら、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、デザイン工学部生のための履修の手引きと法政大学ウェブサイト「教育目標・各種方針」<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html> に記載され、適切に周知・公表が行われている。さらに、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証は、年4回開催の質保証委員会において実施され、適切な内容と手順で方針設定がなされていると評価できる。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

デザイン工学部では、2019年度にカリキュラム改訂を実施し、基礎教育と専門教育の連携に重きをおいた教育課程が編成されており、また建築学科と都市環境デザイン工学科においては、JABEE（日本技術者教育認定機構）より教育プログラムの認定を取得しており、学生の能力育成のために教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていると言える。デザイン工学部の3学科は、1年次から履修可能な科目を多く配置しながらも、年次が上がるとともに専門性を深めていくことができるように科目が配置されており、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを整備し学生に周知することで、学生の能力育成の観点からのカリキュラムの順次性・体系性の確保を実施している。『総合的デザイン』能力を身につけるための外国語教育科目、理工系基盤教育科目、総合系・人文社会系科目等の幅広く深い教養科目が設置され、及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されている。

また、デザイン工学部は、初年次の少人数制の初年次導入科目の設置や基礎科目、語学科目の充実を図っており、初年次教育・高大接続への配慮が適切に行われ、学生の国際性を涵養するための教育内容も適切に提供されている。具体例としては、積極的な外国人客員教員の招聘やシステムデザイン学科の海外英語研修が挙げられる。

さらに、デザイン工学部は、専任教員以外の多様な才能と特異な専門性を有する多くの外部講師の参画や初年次配当の導入科目における卒業後のキャリアパスの紹介を実施しており、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育が適切に提供されていると評価できる。

<③教育方法に関すること (3.4) >

デザイン工学部では、新入生に対するオリエンテーションの一環としての「スプリングセミナー」「導入ゼミナール」、少人数制による履修指導や、2年生以上に対する進級時ガイダンスの実施を通して学生への履修指導・学習指導が適切に行われている。学習指導については、成績不振学生への専任教員による面談等も実施され、適切な指導が行われている。また、学生の学習時間（予習・復習）を確保するため、年間履修登録上限数を49単位とする上限設定が行われ、また、学習支援システムを活用した資料提供や学習指示、授業時間外でのグループワークの方策がとられている。

また、デザイン工学部は、教育上の目的を達成するために効果的な授業形態の導入に取り組んでいると評価できる。具体的には、建築学科とシステムデザイン学科の大型工作機械や3Dプリンタ、3Dスキャナ等を活用した造形実習教育や都市環境デザイン工学科の対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL型フィールドワーク）などが挙げられる。また、英語科目で1クラス30名以下に設定することや、建築学科の演習科目の4~6クラス分割、都市環境デザイン工学科・システムデザイン学科の基礎科目・実習科目の2クラス分割などが実施されており、授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して1授業あたりの学生数が配慮されている。

さらに、シラバスが適切に作成されているかの検証については各学科の質保証委員会により実施されている。また、授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、建築学科・都市環境デザイン工学科の日本技術者教育認定機構プログラム責任者が中心となり、教員相互のチェックを実施している。また、年に一度の教員相互の情報交換の場を設けている。加えて都市環境デザイン工学科では、次期授業改善計画を作成することで授業内容・シラバスを継続的な再点検が実施されている。

COVID-19への対応・対策としては、Zoomや学習支援システム、Google Classroom、YouTube等を横断的に活用し、対面授業の実施を前提としつつオンラインコンテンツ化することや定期試験の代替として学習支援システムの課題機能やテスト機能を活用した成績評価が実施されているため、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫が

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

講じられていると評価できる。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >

デザイン工学部の建築学科・都市環境デザイン工学科は、JABEE プログラム責任者を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証しているため、成績評価と単位認定の適切性が確認されていると評価できる。厳格な成績評価を行うための方策は、年度末等に開催の授業打ち合わせ会や講師懇談会等の場で実施され、成績の厳正評価を兼任教員を含む全教員の共通認識とすることを徹底することで達成されている。

学生の就職・進学状況、および、成績分布、進級などの状況は、進路情報の収集・管理、および、GPA 分布やGPCA 算出の実施で把握されていると評価できる。

学習成果の測定、学習成果の把握・評価、および、学習効果の可視化の具体的な取り組みとしては、TOEIC-IP スコアの到達目標の設定や学生へ学部共通の達成度自己評価システムを提供することなどが挙げられる。また、学習効果の可視化は、これらに加えて優秀作品の公開と学生による研究成果・作品の発信により達成されている。

また、JABEE 評価結果をもとにした教育全般の改善、および、カリキュラムの見直し期の各学科内委員会の設置を実施することで、学習成果の定期的な検証とその結果をもとにした教育課程及びその内容・方法の改善・向上の取り組みが行われている。

さらに、各学科において授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し、学科内で共有することなどを実施しており、学生による授業改善アンケート結果が組織的に利用されていると評価できる。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度 4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。新規

※取り組み概要を記入。

学部長会議や入学センターから得られる情報に基づいて、学部執行部で学生募集及び入学者選抜の制度や体制について方針を定め、運営委員会、教授会で承認している。多種多様な入学経路を経た学生の入学後の学習成果を確認し、継続的な点検と改善を図っている。入学者選抜面接や書類審査は複数名の教員で担当し、その結果を学部内で共有することで公正に実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度 4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学者数の算定に経験豊富な入学センターのアドバイスに基づいて一般入試の合格者のボーダーラインを定めている。ここ数年間は適切な範囲内での定員充足率を維持していたが、2022年度はシステムデザイン学科で入学者が超過した。今後も、入学センターと協力して、適正な入学者数となるように努める。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・ 全学方針に基づき、様々な方式による入学試験を実施し、多種多様な学生の確保に努力している。
- ・ 比較的入学定員の多い指定校推薦入試に関しては、過去の入学実績と学生就学状況の追跡調査に基づいて毎年指定校の入学推薦基準を見直し、入試方策の適正化を継続的に図っている。
- ・ 新入生対象のプレースメントテストと TOEFL-ITP レベル 2 により入試方式と入学時学力との相関性を調査・分析し、入試システムの改善・向上を図っている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ プレースメントテスト成績結果
- ・ TOEFL-ITP レベル 2 の成績結果

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

新入生対象のプレースメントテストと TOEFL-ITP レベル 2 の結果より入学時の学力を把握するとともに、学習募集および入学者選抜の制度についての検証を定期的に行っている。また、入学経路毎の学習成果を追跡調査することで、学生募集や選抜制度の検証にフィードバックする。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

- ・ システムデザイン学科の 2022 年度入学者数が定員を約 1 割超過した。次年度以降の入学者数適正化が課題である。

【学生の受け入れの評価】

デザイン工学部は、求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針が設定されている。また、学部長会議や入学センターから得られる情報に基づいて、学部執行部は学生募集及び入学者選抜の制度や体制について方針を定め、学生募集および入学者選抜の制度や体制を適切に整備しており、入学者選抜が公正に実施されていると評価できる。

定員の超過・未充足へは、2022 年度はシステムデザイン学科の入学定員超過率が 1.13 となっているが、学者数の算定に経験豊富な入学センターのアドバイスに基づいて一般入試の合格者のボーダーラインを定めるなどの対策が取られており、適切に対応されている。また、全学方針に基づいた様々な方式による入学試験を実施して多種多様な学生の確保に努めており、学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証が行われている。その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みが行われていると評価できる。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにして

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

いますか。2018年度5.1①に対応

はい

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・ 「デザイン工学部教員適格審査内規」(D工規定006号)
- ・ 「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D工規定008号)
- ・ 「法政大学デザイン工学部の教務助手に関する内規」(D工規定017号)

5.1②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1②に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・ 学部執行部を学部長・教授会主任・教授会副主任により構成。
- ・ デザイン工学部「運営委員会」を執行部と各学科主任により構成し、学部内の役割分担と責任の所在を随時点検・修正しながら所掌・責任体制を明確にしている。
- ・ 各学科では、学科主任が主催する「教室会議」を専任教員により構成し、授業運営・教育改善・学務・広報などに関わる役割分担や責任の所在を常に明確にした上、改善すべき点を随時議論し教育の質向上を継続的に図っている。
- ・ デザイン工学部の英語教育に関する審議、報告を行う英語教育委員会を設置している。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・ デザイン工学部規程は専任教員がGoogle Driveで閲覧可能

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・ 「法政大学デザイン工学部教授会規程内規」(D工規程001号)
- ・ 「法政大学デザイン工学部運営委員会規程」(D工規程002号)
- ・ 「法政大学デザイン工学部英語教育委員会規程」(D工規程015号)

<建築学科>

- ・ 教室会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・ 教室会議ならびに拡大教室会議議事録
- ・ 教室会議規定

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい

※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

- ・ 各学科とも、複数の専門系により教育分野全域を偏りなく網羅しており、基礎科目から卒業研究に至るまでの系統だった系別履修モデルで明示されるように、カリキュラムに対応して適材適所に教員を配備している。
- ・ 学部のミッションである「総合デザイン」に基づき、専任教員は各分野において先端的研究能力を有すると同時に、分野横断的にカリキュラムを把握できる人材としている。これら専任教員を各系に原則複数配置して系相互のつながりを強化している。
- ・ 専任教員は兼任講師の教育パートナーとして業務上の課題解決に対して協働するとともに、年1回以上の講師懇談会を開催するなど、教育目標の達成に向けて全専任・兼任教員が一体的に教育を進めている。また、各学科分野に精通した教育技術員を配置し、実習教育を支援する仕組みとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ デザイン工学部生のための履修の手引き(冊子体、法政HONDANA)
- ・ 講師懇談会の配布資料・議事録

5.2②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。2018年度5.2②に対応

はい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部教育での専門区分が大学院での専門分野に展開されており、学部担当全教員が大学院教育も担当することで、学部生への卒業研究指導を修士・博士研究の指導と一体的に進めている。大学院進学希望の学生は大学院科目の先取り履修が可能であり、早期に大学院教育に接する機会を提供している。

建築学科では『アーキテクトマインドについて学ぶ』を学部と大学院に共通する教育理念・目的としている。都市環境デザイン工学科では1年時の導入ゼミナールおよび3年次のゼミナールでのキャリア・ガイダンスの中に大学院への進学指導を含めている。システムデザイン学科では、3年生春学期からゼミナール1を開始し、早期に基礎的知識を深めた上で、4年次に卒業研究・卒業制作を行っている。これにより、学生は大学院における教育の方向性について早い段階から把握している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・ 学部担当表および大学院担当表
- ・ デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・ Web シラバス

<建築学科>

『アーキテクトマインドとは何か?』

<都市環境デザイン工学科>

- ・ 「ゼミナール (都市)」授業資料
- ・ 「導入ゼミナール (都市)」授業資料

<システムデザイン学科>

教室会議事録

5.2③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。2018年度5.2③に対応

はい

【特記事項】 ※ない場合は「特になし」と記入。

教授会にて教員年齢構成の適正化について合意形成されている。定年退職に伴う新任教員の採用を実施した結果、現時点でバランス良い年齢構成となっている。

(2021年度)～30歳:2人(5%),～40歳:8人(20%),～50歳:9人(22.5%),～60歳11人(27.5%),～70歳10人(25%)
(2017年度)～30歳:0人(0%),～40歳:2人(5.7%),4～50歳:7人(20%),～60歳12人(34.3%),～70歳14人(40%)

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 第143回デザイン工学部教授会議事録
- ・ 「デザイン工学部・若手採用人事」に関する申し合わせ (D工申し合わせ 005号)

5.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

5.3①各種規程は整備されていますか。2018年度5.3①に対応

はい

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・ 「デザイン工学部教員適格審査内規」(D工規定 006号)
- ・ 「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」(D工規定 008号)
- ・ 「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則」(D工規定 007号)
- ・ 「法政大学デザイン工学部の教務助手に関する内規」(D工規定 017号)

5.3②規程の運用は適切に行われていますか。2018年度5.3②に対応

はい

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等(非公開)を添付することも可。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

- ・ 推薦あるいは公募により各学科が教員の採用候補者あるいは昇格人事対象者を教授会に提案。
- ・ その後、教授会において人事委員会付託の是非を決定。
- ・ 人事委員会での審議の結果が教授会で報告され、教授会において審議されたのち、投票により採用・昇任の是非を決定。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.4①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

<3 学科共通>

- ・ 毎年度末に講師懇談会や授業打ち合わせ会を開催し、兼任教員や教育技術嘱託を交えて教育内容、教育方法等の改善を検討
- ・ 各兼任教員に対して窓口となる担当の専任教員を配置し、兼任教員との確実な連絡体制を構築
- ・ 学生による授業改善アンケートの実施

<建築学科>

- ・ JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告

<都市環境デザイン工学科>

- ・ JABEE 研修会への代表教員の参加と研修報告
- ・ 学内外で実施される FD 推進活動への参加と日常的実践ならびに FD 活動報告書の提出
- ・ 授業のビデオ画像収録による自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など授業改善を継続的に図る仕組みの整備

<システムデザイン学科>

- ・ 教室会議において、授業の内容や実施状況、スケジュール管理、課題等に関して議論
- ・ 実習科目の成果発表会における外部審査員の招聘

【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

<建築学科>

- 1) 3名の外部審査員を招聘し、卒業設計優秀作品公開講評審査会を開催し、総評を HOSEI STUDIOWORKS に掲載、配布を行った。
- 2) デザインスタジオ連絡会議を開催し、専任・兼任教員による横断的な意見交換を行い、各スタジオ間連携及びデザイン教育全体の俯瞰的な授業内容の点検を年度末に実施している。2021年度はコロナ禍による影響を鑑み、8月28日と3月16日の計2回実施した。
- 3) JABEE 建築分野審査・受審セミナー、2022年3月7日(月)13分～15時30分、建築学会（オンライン）、専任教員1名参加

<都市環境デザイン工学科>

- 1) 第3回～第21回教室会議にてFD活動の意見交換を約20分実施、オンライン形式、全専任教員
- 2) JABEE 受審校研修会、2021年6月19日、オンライン形式、専任教員1名
- 3) 授業改善のための書籍購読と授業への反映、2021年4月～随時、研究室・遠隔作業室、専任教員1名
- 4) 第2回FD 教員セミナー「剽窃チェックソフト（Turnitin）の利用方法について」、2021年11月24日・12月22日、オンライン形式、専任教員2名
- 5) 2021年度第2回自己点検委員会・大学評価室セミナー「「ポストコロナ禍での認証評価の重要性および第4期認証評価の方向性について」」、2022年1月20日、遠隔執務室、専任教員1名
- 6) 教育方法の改善（土木学会誌2021年5月号特集「土木教育—「できない」を言い訳にしない質の高い教育の実現に向けて—」を読んで、教育改善、評価が高い教育内容およびコロナ下での教育実践方法の把握）、自宅、専任教員1名（都市）
- 7) 第28回大学評価室セミナー、2022年1月20日、オンライン形式、専任教員1名
- 8) JABEE 審査員研修、2022年2月24日、オンライン形式、専任教員1名

<システムデザイン学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>1) 「プロジェクト実習・制作2」最終発表における外部審査員への優秀作品動画の配信 配信日；2022年1月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生作品へのフィードバック・コメント ・配信動画の閲覧数：17回 https://youtu.be/0gSnpFZuZPk <p>2) 兼任教員を交えた授業打ち合わせ会の実施 オンライン実施日：2022年3月1日オンライン実施、参加者：60名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の授業実施状況の振り返りと課題の抽出 ・2022年度の授業実施計画の確認と課題の抽出 <p>・COVID-19における対応と対策</p>
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・各学科教室会議議事録 ・都市環境デザイン工学科拡大教室会議配布資料・議事録（FD活動報告書、WG活動報告を収録） ・各授業担当者が作成した授業改善計画書（次期授業改善計画を収録）（都市環境デザイン工学科） ・授業打ち合わせ会案内（システムデザイン学科）

5.4②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>学外組織との共同研究や受託研究、寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。また、多くの教員が官公庁や公共団体の設置する委員会等に招聘され、行政施策の策定等に参加している。</p> <p>本学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。</p> <p>建築学科では、例年5月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている（コロナ禍により2020年度、2021年度は各教員の判断によりゼミごとに判断して実施）。</p> <p>都市環境デザイン工学科では、卒業生組織と連携して、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく「社会工学セミナー」を毎年実施している（2021年度はコロナ禍により中止）。</p> <p>システムデザイン学科では、積極的に学外コンペティション等に作品や成果を応募するようにしている。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部教授会議事録 ・「エコ地域デザイン研究センター」ホームページ、年次報告書 ・「国際ワークショップ」ポスター、「ウォークラリー」ポスター（建築学科） ・「社会工学セミナー」パンフレット、「外濠市民塾」パンフレット（都市環境デザイン工学科） ・システムデザイン学科ホームページ（受賞報告）

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・教員採用・承認等に関するデザイン工学部規程の点検を行い、「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規」

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

「デザイン工学部教員適格審査内規」を改訂し、第136回デザイン工学部教授会（2021年6月22日）で承認された。

- ・兼任教員や教育技術嘱託を交えた講師懇談会や授業打ち合わせ会を実施し、授業改善の検討を行っている。
- ・本学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」および「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

・公開講座などの各種取り組みについて、COVID-19の影響を踏まえた見直しを適宜検討する必要がある。

【教員・教員組織の評価】

デザイン工学部規定：D工規定006号、D工規定008号、D工規定017号が定められており、法令に定める教員の資格要件等を踏まえた教員に求める能力・資質等が採用・昇格の基準等で明らかにされていると言える。また、D工規定001号、D工規定002号、D工規定015号が整備されているため、組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在が明確にされている。デザイン工学部生のための履修の手引きやカリキュラム見直しが適切に実施されているため、学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織も備えられていると評価できる。

毎年度末に講師懇談会や授業打ち合わせ会が開催され、兼任教員や教育技術嘱託を交えて教育内容・教育方法等の改善が検討されており、学部・学科内のFD活動が適切に行なわれていると評価できる。

また、学外組織との共同研究や受託研究・寄付研究等を行うことによって産官学連携による教育研究の推進が図られ、社会への研究成果の還元も実施されているため、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策が講じられていると評価できる。具体的には、積極的に学外コンペティション等に作品や成果を応募することなどが挙げられる。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。
- ・各学科教室会議において、年度末には全ての履修状況データを把握し情報共有を図っている。
- ・退学希望者には学科主任または指導教員が面談を行い退学理由の把握を行うとともに大学への要望等の把握を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- ・運営委員会資料
- ・デザイン工学部教授会資料

<建築学科>

- ・教室会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・教室会議議事録

<システムデザイン学科>

- ・教室会議議事録

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

6.1②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。

<学部共通>

全教員がオフィスアワーを設定し、学生が相談に訪れやすい環境を整備している。また、2022年度より授業担当者のメールアドレスを公開し、学生が個別に教員へ連絡が可能な体制を整えた。

<建築学科>

学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。春学期・秋学期終了時には成績不振者や留級・留年者の状況を把握し、ゼミ所属学生の場合は指導教員が、それ以外の学生には学科主任が個別面談を行い学習指導を行っている。

<都市環境デザイン工学科>

学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返るとともに、学生からの報告に基づいて各学生の担任教員は達成度や学習効果を把握・確認している。春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級・留年者の状況を教室会議で確認し、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。また、外国語科目（英語）および物理系科目では習熟度別クラス編成を実施している。

<システムデザイン学科>

学習達成度自己評価システムを導入し、学生が自ら「目標設定」「振り返り」「達成度評価」を行うことを支援・促進している。また、各種コンペティションに関する個別相談や、成績不振者を対象とした個別面談を実施している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・「履修計画立案・達成度評価システム」のURL（デ工学習支システム移行に伴い閉鎖予定）

6.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度6.1③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。

- ・取得単位数やGPAの値がある一定水準以下の学生、ならびに学期末に留級した学生に対して、教室会議で対応を協議し、進級・卒業に支障が生じることがないように、学科主任あるいは担当指導教員が適宜面談指導を実施している。
- ・成績不振学生に対する学修指導制度については教授会で確認・共有している。
- ・必要に応じて保証人との面談を実施する。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第134回教授会議事および議事録

<建築学科>

- ・面談記録

<都市環境デザイン工学科>

- ・面談記録

<システムデザイン学科>

- ・面談記録

6.1④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018年度6.1④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の導入ゼミナールを通した導入教育。 ・学部共通の基盤科目として留学生科目（一般数学、日本文化論、日本語等）を設けて外国人留学生の修学支援を実施。 ・学内チューター制度の活用による修学支援の他、TA（特に外国人留学生）による相談体制の整備。 ・全教員がオフィスアワーを設定し外国人留学生の個別相談に対応。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・デザイン工学部生のための履修の手引き（冊子体、法政HONDANA）

6.1⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・教授会において学生相談室講師による研修を実施した。 ・担任制の導入による相談体制の構築を行っている。 ・オフィスアワーを設定し、学生が相談しやすい環境を整備している。 ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・第142回教授会議事および議事録 ・教室会議議事録

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーを設定し、学生が相談しやすい環境を整備している。 ・成績不振者への面談等によるきめ細やかな指導を行っている。 ・運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・学習障害のある学生への就学配慮と、成績評価基準の明確化との両立が課題である。

【学生支援の評価】

デザイン工学部では、運営委員会、教授会、各学科教室会議において卒業・卒業保留・退学状況の報告され、学部・学科単位で把握がされている。

全教員によるオフィスアワーの設定だけでなく、学習達成度自己評価システムの導入、学内チューター制度の活用による修学支援、TA（特に外国人留学生）による相談体制を整備し、学部・学科としての学生の修学支援の取り組み、および、外国人留学生の修学支援、学生の生活相談への組織的な対応が実施されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

また、成績が不振な学生に対しては、教室会議で対応を協議し、進級・卒業に支障が生じることがないように学科主任あるいは担当指導教員が適宜面談指導を実施するなど、適切に対応されていると評価できる。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーター等を配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018 年度 7.1①に
対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

<デザイン工学部>

- ・教育技術嘱託、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) などの技術スタッフについては、その役割を明確している。TA、RAについては、事務と連携をとり、年度の初めにガイダンスを実施し、適切に配置している。
- ・TAが自分の経験を元に、その授業内容に適した身近なアドバイス (参考図書や資料の選び方、自ら行動を起こしやすい具体例) を行い、気付きを促すためのミニレクチャーを行っている。
- ・教員及び教育技術嘱託で構成される「造形製作室運営委員会」を設置し、限られた教育・研究スペースの有効活用を図るために活動している。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

7.1②学部 (学科) として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※取り組みの概要を記入。

- ・感染拡大状況に対応して教室定員の低減を行い、密を避ける
- ・ポスターの掲示により、科学的見地に基づく換気の徹底を周知し、感染防止対策を徹底する
- ・登校者数の把握と授業内外の教室利用を考慮したハイブリッド型授業の合理的な活用

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

「コロナ禍における教室使用時の換気についての注意事項」ポスター

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・TAが自分の経験を元に、その授業内容に適した身近なアドバイス (参考図書や資料の選び方、自ら行動を起こしやすい具体例) を行い、気付きを促すためのミニレクチャーを行っている
- ・教員及び教育技術嘱託で構成される「造形製作室運営委員会」を設置し、限られた教育・研究スペースの有効活用を図るために活動している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画 (既の実施している場合にはその進捗状況も含めて) をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。

内容
特になし

【教育研究等環境の評価】

デザイン工学部では、教育技術嘱託、ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）などの技術スタッフの役割を明確にすることで適切な配置と体制整備が図られ、また、事務との連携により、TA、RAに対するガイダンスが実施され、適切な配置と体制整備が図られている。

新型コロナの感染拡大状況に対応して、蜜を避けるための教室定員の低減、および、ハイブリッド授業の合理的な活用が実施されているため、学部・学科として学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関する COVID-19 への対応・対策が行われていると評価できる。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 8.1①に

対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

<デザイン工学部>

- 当学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究センター」及び「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。

<建築学科>

- 公開講座を実施している。
- 例年 5 月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1 年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が、「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。

<都市環境デザイン工学科>

- 教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく社会工学セミナーを実施している。(2021 年度はコロナ禍により中止)
- 学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行うことにより教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。

<システムデザイン学科>

- 公開講演会を実施している。
- 学外組織との共同研究・受託研究・寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を行っている。また積極的に学外コンペ等に作品や成果を応募するようにしている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<デザイン工学部>

- 「エコ地域デザイン研究センター」WEB サイト

<建築学科>

- 「国際ワークショップ」のポスター
- 「ウォークラリー」ポスター

<都市環境デザイン工学科>

- 「社会工学セミナー」パンフレット
- 研究開発センター「研究実績・採択実績」<https://www.hosei.ac.jp/kenkyu/achievement/>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・「外濠市民塾」WEB サイト、パンフレット

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

デザイン工学部教員が2つの研究センターの活動に主体的に関わることで社会貢献・社会連携に携わっている。また、授業や各種企画を通して卒業生や実務者と継続的に連携することで社会と密接な連携が図られている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

デザイン工学部では、多くの教員が学会などの外部組織と連携しシンポジウムの講師を務めている。また「エコ地域デザイン研究センター」及び「江戸東京研究センター」の2つの研究センターの活動に主体的に関わり、社会貢献・社会連携に努めていることは評価できる。公開講座・講演会や、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく社会工学セミナーが実施されているため、学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動が行われていると評価できる。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度9.1①に対応

はい

※概要を記入。

<デザイン工学部>

- ・学部執行部は、学部長、主任、副主任から構成されており、その役割分担を明確にしている。学部の運営は運営委員会（執行部＋各学科主任）と教授会を中心に行っている。それらの運営は「法政大学デザイン工学部教授会規定内規」および「法政大学デザイン工学部運営委員会規定」に従って行っている。
- ・2018年度より、運営委員会で審議し教授会に報告する事項と、教授会で時間をかけて審議する事項を選別し、重点化を図っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「法政大学デザイン工学部教授会規程内規」(D工規程001号)
- ・「法政大学デザイン工学部運営委員会規程」(D工規程002号)

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・2018年度より、運営委員会で審議し教授会に報告する事項と、教授会で時間をかけて審議する事項を選別し、重点化を図っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【大学運営・財務の評価】

デザイン工学部では、D工規程 001号、D工規程 002号が整備され、また、役割分担を明確にし、権限や責任を明確にした規程が整備され、教授会・運営委員会などが規程に則って運営されている。

III 2021年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	1) カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2) 高学年における英語教育のあり方について検討する	
	ネットモレヨウ	1) 他学部の教養教育の状況も参考にしながら、デザイン工学部基盤教育の基本方針を検討する。 2) 高学年次における英語教育のあり方の観点から現カリキュラム(2019年度改定)の評価・検証を行う。	
	達成指標	1) デザイン工学部基盤教育方針を策定する。 2) 2023年度のカリキュラム改定に向けて、高学年次の英語教育に関する課題の抽出と対応方針の検討を行う。	
	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	B	
	理由	1) 基盤教育委員会において議論を重ね、デザイン工学部基盤教育方針を策定し、教授会の承認を得た。 2) 英語教育委員会を中心に取り組む計画であったが、主に1年次の英語教育におけるコロナ禍およびコロナ後のオンライン活用の議論を優先させた結果、高学年次の英語教育に関する具体的な議論には至っていない。	
	年度末報告	改善策	1) 策定された基盤教育方針に沿って、基盤教育を担当する教員の採用とカリキュラムの改定を具体的に進める。 2) 高学年次の英語教育のあり方について、カリキュラム改定の議論と併せて検討する。
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	1) 懸案事項であった基盤教育方針の策定を行い、教授会承認を得たことは評価できる。 2) オンライン活用の議論を優先させたことは理解するが、高学年次の英語教育に関してはカリキュラム改定のタイミングで議論が必要である。	
	改善のための提言	1) カリキュラム改定に合わせた基盤科目の見直しと教員の採用について、執行部、基盤教育委員会、各学科が連携しながら、迅速に、かつ中長期的な視点で進められたい。 2) 英語教育に関して、学年を問わず、既存のオンラインサービスやオンラインコンテンツの積極的な活用について検討されたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	1) 造形製作教育の充実・拡張について検討する 2) オンライン授業の定着について将来構想の一環として検討する	
	年度目標	1) 造形製作室の利用状況をモニタリングし、コロナ禍における適切な造形製作室の運用方法を検討する。 2) コロナ禍およびコロナ収束後のオンライン授業のあり方について検討する。	
	達成指標	1) 感染状況に応じた適切な造形製作室の運用体制を整備する。 2) 学部内外のオンライン授業に関するグッドプラクティスを調査・集約し、知見を教員間で	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

		共有する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1)造形製作室運営委員会において運用上の課題を抽出・共有し、運用ルールの確認・改訂を行った。 2)各学科の取組みや工夫を集約し、教授会において情報共有した。
	改善策	1)学科によって利用頻度や利用機材が異なるため、この点を考慮した適切な管理運用について検討を進める。 2)オンライン授業の活用について引き続き検討・試行をしながら教育の質の向上を目指す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	1)十分な感染症対策のもと、学生が造形製作環境を継続して利用できるよう引き続き適切な運用・管理がなされることを期待する。 2)各学科・各教員による取組みが確認できた。継続的な創意工夫による教育の質の向上に期待する。
	改善のための提言	1)造形製作室に関して、限られたスペースで最大の教育効果が得られるよう設備・機材の保守、更新、新規導入、撤去等が適切に計画的に行われることが求められる。 2)授業内容や履修人数等を考慮してオンライン・オンデマンドで実施する授業の選定について、学部・学科として基本的な考え方を議論・確認する必要がある。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	オンライン授業が定着した場合の学習成果の評価方法を検討する
	年度目標	演習・実習系科目におけるオンラインを活用した制作物（成果物）の共有や評価、講評の方法について検討する。
	達成指標	演習・実習系科目における学習成果の評価方法等について、オンラインの活用状況と課題を教員間で共有する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科において状況および課題の確認を行い、その結果を教授会で情報共有した。
	改善策	オフラインとオンラインを併用した、より効果的で適切な方法を模索していく。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学科を横断した情報共有が行われたことは評価できる。
	改善のための提言	デザイン工学部において演習・実習系科目を対面実施することの意義は大きい。一方で、学習成果の共有、評価に関してオンライン活用の有用性も実感されていることから、より良い方法の継続的な検討を期待する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する
	年度目標	・入試経路と入学後の成績・進路等との関係を把握する。 ・デザイン工学部における教育の特徴を理解してもらうための受験生を主な対象としたオンライン授業公開の実施可否について検討する。
	達成指標	・入試経路ごとの特徴や課題を整理し、教育方法に反映させるための提案を行う。 ・オンライン授業公開またはこれに代わる施策を実施する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
年度末報告	理由	・入試経路と入学後の成績（主に GPA）との関係について各学科で分析を行い、その結果を教授会で情報共有した。 ・デザインスクールをオンラインで開催し、在学生向けコンペティションの2次審査の公開を行った。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		改善策	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果をカリキュラムや授業形態・運用の改善につなげる検討を行う。 オンライン授業公開またはこれに代わる施策について次年度以降も継続して検討・実施を行う。 	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	<ul style="list-style-type: none"> 入試経路と成績との関係について、データに基づく客観的な分析が行われた。これらの結果の具体的な活用を期待する。 デザインスクールを、コンペティション審査の公開という、学部の特徴を表す新しい形式で開催した点を評価する。 	
		改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果がカリキュラム改定や授業改善に活用されることを期待する。GPA以外の観点での分析や経年変化の調査についても検討されたい。 受験生向けの広報に関して、デザインスクール等のイベントに限らず、オンラインコンテンツの公開など、他の手段についても検討されたい。 	
No		評価基準	教員・教員組織	
5		中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行	
		年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育方針と併せて専任教員の採用計画について検討する。 教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う。 	
		達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育方針に沿った専任教員の採用方針を定める。 予定している3件の新規採用人事を行う。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育方針の策定過程において基盤教育担当教員の採用についても継続的な検討を行い、採用方針を基盤教育方針に盛り込んだ。 予定していた新規採用人事3件のうち2件については来年度4月着任が決定した。もう1件については結果として新規採用には至らなかったが、採用人事は予定どおり進めたため、A評価とする。 	
		改善策	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育担当教員の採用方針にしたがって採用人事を開始する。 今年度新規採用に至らなかった採用人事を進める。 	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	<ul style="list-style-type: none"> 基盤教育担当教員の採用方針が基盤教育方針に盛り込まれており、評価できる。 教員の年齢構成や専門分野のバランスのとれた2件の新規採用が行われたことは評価できる。1件については、結果的に新規採用には至らなかったが、採用プロセスは適切に行われている。 	
		改善のための提言	基盤教育担当教員の採用に関しては、カリキュラム改定の議論と一体化して速やかに着手されたい。	
No		評価基準	学生支援	
6		中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る	
		年度目標	教員・学生間の円滑な連絡手段について検討する。	
		達成指標	学生が教員に対してオンラインでも質問・相談を行うことのできる環境・仕組みを整備する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	全学で導入している学習支援システムを活用することに加え、新たに兼任・兼任教員のメールアドレスをデザイン工学部生に公開した。	
		改善策	とくにコロナ禍に入学した1・2年生に対して、きめの細かいケアを各学科を中心に組織的に行う。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	今年度学生に公開したメールアドレスがどの程度利用されたかについて確認し、今後の取組みに活かす必要がある。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		改善のための提言	教員・学生間の連絡手段について学生の要望を確認したり、オフィスアワーのあり方について検討したりすることも有用であろう。	
No		評価基準	社会連携・社会貢献	
7		中期目標	1) オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する 2) 2020年3月17日に締結された沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを拡充させる	
		年度目標	1) デザインスクールまたはその代替プログラムについて、オンライン実施の可能性を含めて実施可否について検討する。 2) 沼津市との協定の具体的な利用について検討する。	
		達成指標	1) デザインスクールまたはその代替プログラムを実施する。 2) 沼津市との協定を利用した教育研究活動を実施する。 1)、2)とも、社会情勢等により実施困難な場合は、次年度以降の計画を策定する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		1) デザインスクールを開催した。形式は、感染状況を考慮してオンライン開催とした。 2) 協定に基づくプログラムの題材について協議した。しかし新型コロナウイルス感染拡大により実施には至らなかった。
		改善策		1) デザインスクールまたは公開講座の実施について、受講対象および内容を含めて引き続き検討する。 2) オンラインでの対応を含め、協定の具体化に向けて引き続き検討する。
質保証委員会による点検・評価				
	所見		1) デザインスクールを開催したこと、オンライン開催となることを想定し、内容を工夫した点を評価する。 2) 協定にもとづく具体的な活動が実施できなかったが、次年度以降に向けた検討は行われている。	
	改善のための提言		1) 受講者を受験生に限定しない講座の実施について意義は認めるものの、実施する側にとって過度な負担とならないよう持続可能な形での実現方法が求められる。 2) 社会状況によって柔軟に対応できるプログラムを検討されたい。また、継続的な取り組みにより沼津市との信頼関係を構築されたい。	
【重点目標】 デザイン工学部基盤教育の基本方針とこれに沿った専任教員の採用計画について検討する。				
【目標を達成するための施策等】 2020年度に設置された基盤教育委員会を中心に、他学部の教養教育の状況も参考にしながら引き続き検討を進め、基本方針を策定する。				
【年度目標達成状況総括】 懸案事項であったデザイン工学部基盤教育方針の策定を行い、基盤教育担当教員の採用に向けて具体的な議論・検討を開始できる環境が整った。2022年度は、採用人事と並行してカリキュラム改定の議論を進める。 オンラインの活用やCOVID-19への対応等に関して、各学科の取組みや工夫を集約し、学部内で情報共有した。教育の質の向上に向けて、各学科・各教員による継続的な創意工夫が必要であると考えます。				

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

デザイン工学部の2021年度目標（重点目標含む）の達成度は、良好であると評価できる。また、達成目標に対する結果（「理由」）も適切な記載がなされており、自己評価も妥当であると評価できる。また、改善策も達成指標と結果の乖離を縮めるために妥当な改善策、および、さらに向上させるための改善策が記載されていると評価できる。以上の点から、プロセスと達成度の面から良好な達成状況と妥当性の高い改善策が講じられていると評価する。特に、地域との連携を図る協定関連は、教育・研究に良い効果をもたらすことが予想されるため、新型コロナ禍の状況改善後に1日も早く具体的に実施されることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

IV 2022 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	1) デザイン工学部基盤教育方針を反映したカリキュラムの再整備を行う 2) デザイン工学部全体の英語教育のあり方について検討する
	年度目標	1) 基盤教育科目を個別に具体化し、カリキュラム全体の再構築を図る 2) 高学年の英語教育のあり方を検討する
	達成指標	1) 基盤教育方針を盛り込んだ 2023 年度新カリキュラムの策定を行う。 2) 英語教育に関して、既存のオンラインサービスやオンラインコンテンツの活用方法を検討する
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	1) 造形製作教育の中期的な運用・更新計画を検討する 2) 対面とオンライン教育を併用した実効的な教育方法を検討する
	年度目標	1) 造形製作室における学科毎の利用頻度や利用器材を把握する 2) 授業内容や履修人数等を考慮した上で、学部・学科のオンライン教育基本方針の検討を開始する
	達成指標	1) 造形製作室の中期的な運用計画策定に着手する 2) オンライン授業の活用と教室利用の実態を把握し、現状の課題を把握する
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学部横断的な学習成果の共有と評価方法を検討する
	年度目標	演習・実習系科目における学習成果について学部横断的な評価方法を共有する仕組みを検討する
	達成指標	演習科目の講評会などに教員が学部横断的に参加して評価方法の現状把握と相互理解を深める
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	デザイン工学部の教育の特徴や魅力を独自に発信する方法を検討する
	年度目標	学習成果やオンライン授業、レクチャーなどの公開、またはこれらに代わる施策を検討する
	達成指標	学習成果やオンライン授業、レクチャーなどの公開状況を把握し、課題を抽出する
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	2021 年度に策定した基盤教育方針に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	教員組織の年齢構成、分野のバランスを考慮した適切な新規採用人事を行う
	達成指標	・ 基盤教育を担当する教員の採用人事を行う ・ 退職教員の後任人事を進める
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生と教員の円滑な連絡手段を整備する
	年度目標	学生と教員の連絡方法に関する課題を確認する
	達成指標	教員のメールアドレス公開やオフィスアワーの活用について現状把握を行う
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	1) 連続シンポジウムなどの公開授業やデザインスクールを展開し、デザイン工学分野が果たす社会貢献・社会連携を強化する 2) 沼津市との「景観・まちづくり等に関する協定」についての取り組みを推進する
	年度目標	1) 感染防止対策を徹底しながら、公開授業やデザインスクールを具体的に実施する 2) 協定の具体化を進める
	達成指標	1) 公開授業やデザインスクールの告知方法やフィードバックの方策を検討する 2) 現地において学生が参画したワークショップを実施する
【重点目標】 デザイン工学部基盤教育方針に沿った具体的な科目設置と担当する専任教員の採用を行う 【目標を達成するための施策等】		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

基盤教育委員会を中心に基盤科目の構築と専任教員の人選を検討する

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

デザイン工学部の2022年度中期目標・年度目標は、達成目標も含め具体的に記載されており、「具体性」について適合すると評価できる。また、デザイン工学部の特色・実情・課題に即した中期目標・年度目標と達成指標が設定されており、「適切性」もあると評価できる。また、2022年度中期目標・年度目標（重点目標含む）の目標設定は、2021年度の目標の達成状況を踏まえてを再度見直し更なる改善を目指したものを設定し、また2021年度において自己評価Bとなっているものについては、2022年度も引き続き目標として設定されており、「進歩性」も有すると評価できる。

【大学評価総評】

デザイン工学部は、ほぼすべての評価項目について適切に対応しており、更にそれを推し進めた取り組みを実施している。特に、学生の教育の充実と地域連携、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、今後、さらなる飛躍が期待できる。また、デザイン工学部の各学科は、工学をベースにしながら他の組織や学問分野との連携を図ることで学生教育を充実させている。これは、知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての「総合的デザイン」能力を身につけた学生を養成しようとする理念にかなっており、高く評価できる。

また、COVID-19への対応・対策としてZoomや学習支援システム、Google Classroom、YouTube等、あらゆる方法を併用・活用しており、新型コロナ禍前の状況に戻った際にも、新型コロナ禍前の従来の方法の長所とこれらの新しい方法の長所を融合させたより良い教育方法の構築が期待できる。

一方で、理系学生の集大成とも言える卒業研究の実施方法や対応についての記述が少なかったが、実際には十分に実施されていることが予想されるため、今後の自己点検・評価の際に記載され、見える化されることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。